

ふ事である。同地に採集される方は特に注意せられんことを希望する。この蟲については何れ詳しい事を書く事として、大體の感から云へばバツタの幼蟲ミゴキブリの幼蟲の合の子さいつたやうな形で、翅をもたない。長さは20 mm 位までなる、淡褐色の蟲で、朽木の下又は中なごに棲んで居る。

サムライアリの産地 (矢野宗幹)

日本での奴隷狩をする蟻の代表者さでも云ふべきものであるサムライアリ即ち *Polyergus rufescens* var. *samurai* YANO は私の知つて居る限りではその産地が餘り多くない。私の採集した所では東京附近、(確かに記憶して居るのは目黒及中野附近) 及福岡縣企救郡企救町大字城野、及鹿兒島縣下霧島山等で、友人の採集品は、東京麻布で農學博士小熊捍君の採品、京都で理學士穴戸一郎氏の採品、鳥取で箕浦忠愛氏の採品等である。其等は凡て十數年前の事で其以來餘り注意をしなかつたので新しい産地を知る事が出来なかつた。本年八月二十二日に千葉縣久留里の東南四里許の笹村から清澄山に向ふ途中で一群の蟻が山道を横ぎるのに出逢つて、採つて見るここの種であつた。私の考へではこの種は恐らく可なり普通なものであらうと思ふ。たゞ平常巢の中にばかり居て、僅かに夏の二三ヶ月間其も稀に一二時間づゝ地上に現はれる爲めに人目に觸れるところが少ない爲めであらう。

奴隷狩をする蟻はこれに止まらない、それ等は曾て昆蟲學會例會の際に標本丈を御目に掛けた事もあるが、何れ記述の機會もあらう。

ハナムグリの美 (鹿野忠雄)

私は臺灣にもう幾月かを過した。その間内地さ比較して臺灣らしいと思つた事を、次に順次書いて見たいと思ふ。本篇はその一である。

吾人が臺灣の甲蟲相に注意する時、特に顯著に我々の眼裡に映ずるものはコガネムシ科の甲蟲の豊富な事である。それは内地ではさても見られない、曾て南洋や南米なごの熱帶の輝かしい太陽の國の住者の色彩や形相の持つ魅力に、エキゾチックな情感を起さしめられた様な分子が、燦然さ光を放つて